

大船渡に街路灯寄贈

太陽エネルギーデザイン研究会

太陽エネルギーデザイン研究会の北川卓代表取締役が同市役所を訪問し、金野周明副市長へ大船渡市に太陽光と風力発電による防犯街路灯を寄贈。21日には、風力を併用したハイブリット発電で、日没後



街路灯の設置を握手で喜ぶ
北川氏(中央)と金野支部長

にLED照明が自動で点灯するもの。パトロールとサイレン、監視カメラも設置されており、付属の非常ボタンを押すことで、作動を開始する。施設は金属加工メーカーの菊川工業(東京都、宇津野嘉彦代表取締役社長)が提供した。

街路灯は21日、大船渡市茶屋前地区の国道45号近接地に、県建設協会大船渡支部が1基を設置。金野健支部長は、「当地区は45号でがれきの啓開作業が開始された場所。付近には仮設店舗もあり、市の復興・防犯の目印になれば、犯罪抑止効果に期待を込めた。会員の北川氏は、研究会として被災地に貢献できることはないかと考え、今回の設置に至った。岩手県では宮古市田老地区にも街路灯を寄贈しており、夜間の安全安心に役立てほしい」と語った。